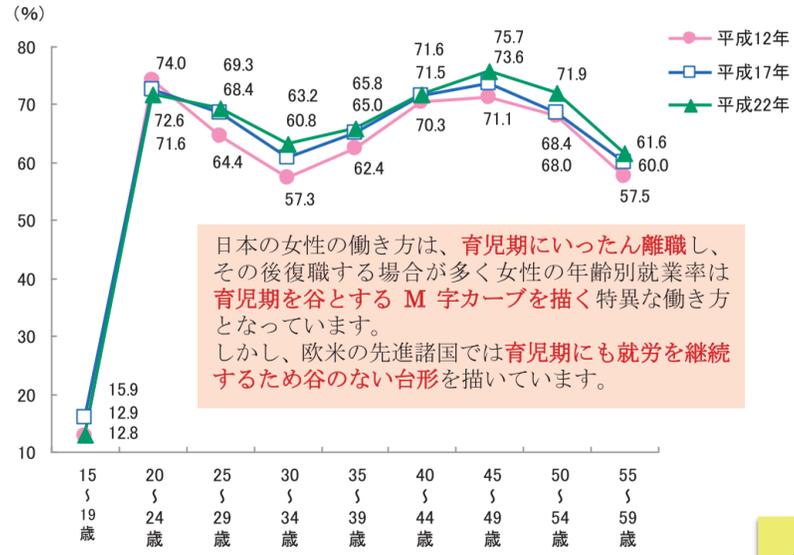




Fight! 女の活躍・男の活躍 新たなステージへ

女性の労働力率 (岩国市)
(年齢別就業率)



日本の女性の働き方は、**育児期にいったん離職し、その後復職する場合が多く女性の年齢別就業率は育児期を谷とするM字カーブを描く**特異な働き方となっています。
しかし、欧米の先進諸国では**育児期にも就労を継続するため谷のない台形**を描いています。

我が国では、少子高齢化、人口減少に伴い、労働力の減少と共に経済成長への不安があります。
この課題を解決し活力あるまちをつくるには、これまで潜在していた女性の力が必要とされ「女性の活躍」が期待されています。
日本の就業している女性の6割が第一子出産のタイミングでいったん離職し、働きたいと思いつつも出産や子育てなどの諸事情により就業をためらう女性も少なくない状況であり、子育て期の女性は理想の働き方ができていないようです。
女性の力が発揮でき、男女が共に安心して働き続け活躍するためには、どのようなことが必要なのでしょう？

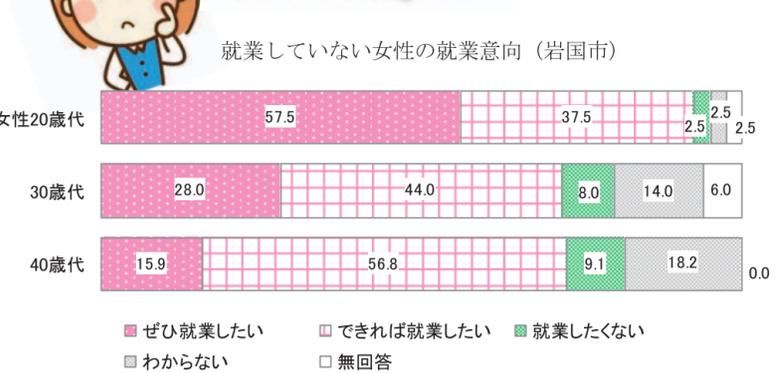
ワーク・ライフ・バランスの推進!

仕事・家庭・地域活動や自分の趣味など、何を優先したいかは個人によって異なります。
自分の暮らし方を見直し、自らが望むバランスで家庭生活や地域生活を過ごすことができれば、日々の生活が充実し豊かな暮らしにつながります。
子育て期や中高年期といった変化するライフステージに合わせて、仕事上の責任を果たすとともに、働き方も変えることができる社会の実現が必要となってきています。
(ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和です)



女性が輝くためには自分のやる気や責任感などの気持ちも必要です。
どうやって生きていきたいのかを悩んだとき、一歩踏み出すことで自分が何をやりたいのか、何に興味があるのかに気づき、自分らしく生きることができるのだと思います。
男性も輝く努力をすることによって、お互いがより輝きあえるのです。

働きたいけど働けない



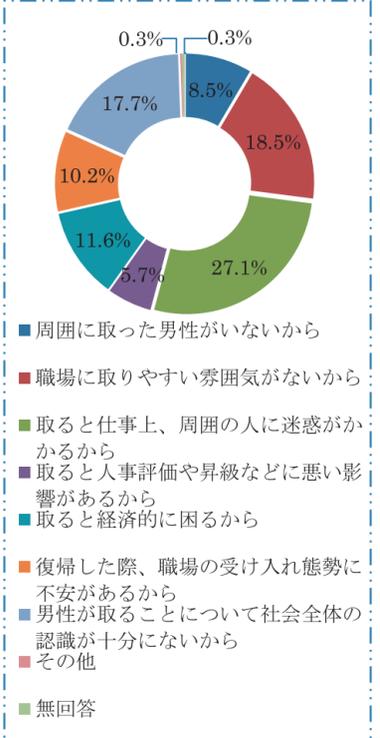
男女が共に働き続けるために必要なこと

女性が安心して働ける環境とは、**保育所等の社会基盤の整備**も重要ですが**職場環境の整備・改善**も欠かせません。職場では労働者の育児休業の取得はもちろん復帰後の育児期間中の短時間勤務制度の推進などライフステージに応じた就労支援を行うことが必要です。更に組織として長時間労働を無くすなど働き方の見直しが必要であり、**男性の家事・育児への参画**を促進することが重要です。
男性が育児休業制度を取得し家事・育児に参加することは、女性の継続就業を支援することにもつながります。

グラフ：岩国市男女共同参画に関する市民意識調査 (H24)

男性の育休取得 職場の理解がカギ

男性が育児休業制度などを利用しない理由 (岩国市)



イクメンという言葉はかなり浸透してきました。父親が保育園の送り迎えをしたり、子どものオムツ替えを行うなど、男性が積極的に育児に関わり、その責任や楽しみを夫婦で分かち合おうとする「イクメン」の姿が多くみられるようになりました。

しかし、子育てに積極的にかかわりたいと思う男性の中には育児休業等の制度を活用しにくい雰囲気や、周囲が残っていると退社しにくい雰囲気があると感じている人も多いようです。



子育て中の社員を理解し活躍を後押しできる上司をイクボスといいます

「イクボス」のほか、育児に関わる祖父を表す「イクジイ」も活躍しています

活力ある地域社会を築くためには

岩国市の審議会等に占める女性委員の比率

年度	審議会委員数	内女性委員数	女性委員の比率
H19	882	174	19.7%
H23	874	185	21.2%
H26	1,217	282	23.2%

(各年4月1日現在)

岩国市の審議会等委員に占める女性の比率は、わずかず上昇するものの低い状況です。男女双方の意見を市政に反映させることは、多様な人材の能力の活用、多様な視点の導入などの観点から重要なことであり、平成29年度までに女性委員を30%以上にすることを目標に取り組んでいます。
この取組の一つとして、委員の公募制を進めております。募集は市広報紙等でお知らせしますので女性の方も積極的にご応募ください。

